



れんげ畑

鴻巣市立鴻巣中央小学校
令和3年9月号

学校教育目標
キャッチフレーズ
ホームページ

【知】友と学ぶ子 【徳】心の豊かな子 【体】体をきたえる子
「はきはき・にこにこ・きびきび」
<https://kochuo-e-konosu.edumap.jp/>

児童数372人

二つのガマ

校長 清水 励

夏休み中に行われたオリンピック「TOKYO 2020」。開催まで様々な経緯がありましたが、やはり一流のアスリートたちの真剣勝負やこれまでの努力の過程などに触れ、私たち観る者に多くの感動を与えてくれた大会だったと思います。

今年はオリンピック開催のためか、メディアにおいて「76年前の出来事」について扱われることが例年より少なかったような気がします。その出来事とは「戦争」です。時が経つにつれ戦争経験者は少なくなり、急速に過去の遠い出来事（まるで別の国の出来事）となってしまう気がします。私は、祖父や両親から実際の戦争の話や学童疎開の話などを聞くことができました。また、子供の頃には、上野公園などで白い服を着た多くの傷痍軍人の人たちを目にすることがありました。けれども、そんな自分でさえ「戦争」は昔のことで、自分には関係ない昔の出来事と感じていました。ましてや、今の子供たちや保護者の世代の方々にとっては、「戦争」をもっと遠い出来事と感じてしまうことは無理のないことかも知れません。

けれども、多くの犠牲者を出した「戦争」から私たちが学ぶことが、「戦争は悪いこと」「平和は大切」ということだけだとしたら、あまりにも犠牲となった方々に申し訳ない気がします。「戦争は悪いこと」なんてことは、小学校に通う前の何も知らない子供でさえ分かっていることです。

1945年（昭和20年）4月。沖縄には、「鉄の暴風」と呼ばれる猛烈な空襲や艦砲射撃とともに、米軍が上陸しました。沖縄戦では、県民12万2千人以上の方が亡くなり、これは「県民の4人に1人が亡くなった」というほど凄惨を極めた状況だったとのこと。

県民の人たちは、米軍の攻撃を避け、また見つからないように隠れるために、ガマと呼ばれる自然の洞窟に避難しました。当時は、「米軍に捕まるとひどいことをされて殺されるから、捕まるくらいなら自ら命を絶つほうが良い」と教えられていて、軍人だけでなく一般の人々もそう信じていました。そんな中、読谷村波平区の人々が避難した二つのガマでは、大きく明暗を分けることが起きました。一つは、「チビチリガマ」というガマで、避難していた83人が、肉親同士で命を絶ち合うことも含めた「集団自決」を行い、多くの命が絶たれてしまいました。もう一つは「シムクガマ」というガマで、約千人が避難していました。そこに米軍が来たにもかかわらず、一人も犠牲者が出ませんでした。この「シムクガマ」には、ハワイ帰りの二人の日本人男性がいて、「アメリカ人は、私たちを殺したりしない。」と、ガマで怯える住民や武器を持って戦おうとする人々を説得したのです。さらに、この二人は、米兵と直接の話し合いを行って、ガマに避難していた住民を全員無事に投降させることができたとのこと。

この話は、私たちに「教育の影響力の大きさ」や、「正しい情報収集の力」「説得力を含めたコミュニケーション能力」などの重要性を教えてくれるものだと思います。

既に現在、先行き不透明で変化の激しい世の中となっています。子供たちに身に付けさせるべき資質・能力として、社会の変化に対応する力や、解決困難な諸課題に対して他者と協力し合い果敢に取り組むことのできる力を育てていかなければなりません。そのためには、私たち大人自身が、今直面している諸課題の解決に向けて、これまでの経験を活かしながら、そして、笑顔を忘れずに挑むことこそ、子供たちの未来を支える基盤になるのではないのでしょうか。

今後の新型コロナウイルス感染症の状況には、これまで過ごしてきた約1年半以上に厳しくなるという予想もあります。「私たちは何をすべきか」「私たちにできることは何なのか」を保護者・地域の皆様と協力し合いながら、子供たちの逞しく健やかな成長を支えていきたいと思っています。今学期もどうぞよろしくお願いいたします。